

<授業担当者の皆様へ>

各担当科目の第1回目の授業時に、本内容に沿って、学生に必ず説明してください。

【授業担当者用】

地震発生時 行動マニュアル

緊急地震速報受信 >>> 放送が流れる

毎年6月及び12月の第1月曜日の17時45分に、緊急地震速報の試験放送が流れます。

1. 揺れへの警戒
2. 全ての授業を中断
3. ドアを開放 出口の確保

(数分たっても)
揺れが来ない場合
は、中断していた
授業を再開

揺れが
同時に発生

グラッ！！ときたら >>> 学生の身の安全を図る

1. あわてて外に出ない！ 危険！
2. ドアを開放。出口の確保。
3. 机の下にもぐる、持ち物で頭を覆う。落下物から身を守る。

揺れがおさまったら

1. 学生の負傷者の有無を確認。可能であれば教室にいる人数の確認。
2. 大きな地震の後には余震の恐れ。ガラスから離れ、室内の安全な席へ移動。
3. 安全が確認できた場合には、まずその場で待機。
4. けが人がいたら周囲の協力を求め可能な範囲で応急対応を行う。

大きい揺れだった

小さい揺れだった >>> 授業・作業を再開

放送が入ったら >>> 放送に従う

放送が入らない

指示に従い学生の安全を確保。

相互に協力しあって落ち着いて行動。

火災が起きたら初期消火 消火器は各階の廊下に設置（場所要事前確認）

1. 火災が起きたら初期消火。非常ベルで火事を知らせる。
2. 天井まで火が届いたら消火器では困難。無理せず119番通報。

避難するのはこのような時…

- * 建物の破損がひどい、倒壊する恐れがある時。
- * 火災が広がった時。
- * その他、周囲の状況から避難の必要があると判断した時。
- * 対策本部から避難指示があった時。

避難させる時、誘導する時 >>> パニックを最小限にくい止める

1. 避難をするときは荷物を全て持つ。避難をしたらすぐには戻れない可能性が高い！！
2. 出口に殺到しない。
3. 「おかしも」(お(押)さない、か(駆)けない、しゃべらない、もど(戻)らない)の徹底。
4. 身体に障がいのある方や高齢者、負傷者のサポートは必須。
5. 隣の部屋と声を掛け合い協力しあう。
6. 停電の場合は、誘導灯を目印に避難。
7. 上下階の移動は階段。エレベータは使用禁止。
8. 可能であれば、室内全員の退出を確認。

避難後の報告

1. 避難者数を確認。
2. 負傷者の人数を確認。
3. 対策本部が立ち上がったら報告。

災害後の作業

災害の規模により、その後の作業の様子が大きく変わります。ご協力ください。

学内にいる時に地震が発生した場合には、災害対応・復興対策にご協力ください。すぐに家には帰れないこともあるかもしれません。ご家族の方とは安否確認の方法を事前に相談しておいてください。